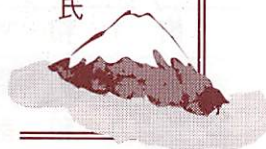


富士山が素晴らしいという言葉は眺めていう人に多いのですが、山梨県の下部温泉のポスターには、富士山はじやまだと書いてあります。富士山は、3776.4mと日本一高い山のために、その日陰になる地域も大きく、山の北西面では作物を育てる生活に苦労をしています。表側の富士山のすばらしさの反対側では、今でもこのような苦労をしています。人達がいることをまず紹介しておきます。

「富士山紀行」

松永 敏郎氏



多くの旅人が富士山の美しさを和歌、俳句や紀行文に残しています。古くは、万葉集に山部赤人が呼んだ有名な和歌「田子の浦ゆうち出でて見れば真白にぞ、富士の高嶺に雪は降りける」がありますが、この直前にある富士山を讃える長歌「天地の別れし時ゆ、神さびて、高く貴き駿河なる富士の高嶺を、…」の反歌として歌われたものです。万葉集らしいすばらしい歌です。

富士山にまつわる話もたくさんあります。平安時代に書かれた、竹取物語にかぐや姫が献上した「不死の薬」を「不二の山」の頂上で燃やすという話が出ています。最近の例では、太宰治が執筆した小説『富嶽百景』の二節に「富士には月見草がよく似合ふ」やまた新田次郎が、富士山の「強力」を書いた直木賞受賞作『強力伝』がよく知られています。

富士山と信仰

富士山を「神体」として信仰し、登拝することは、室町時代の後期頃から行われていました。最初は修行者が主でしたが、江戸時代になって富士山を信仰する富士講に引き継がれ、多くの登山者が身を清め、頂上を目指しました。

このような富士山信仰の高まりに合わせて、富士山が見える場所を示した「富

士見十三州輿地全図」や天保13年に富士登山のガイドブック「富士山道知留辺」などが出版されています。

現在富士山の御神霊は、火の神を鎮め無実の難を救う安産の神コノハナノサクヤヒメノミコトです。この神を祭神とする浅間神社は山麓に十数社があり、その総本宮が富士山本宮浅間大社で、富士山頂に奥宮があります。

富士山の自然

富士山頂への登山は、(新五合目まで車やバスで行き、そこから山頂に向けて登ります。登山のルートは、北からの吉田口、東からの須走口、南東からの御殿場口、南からの富士宮口があります。この他富士山修験道と関連した富士宮市村山から富士宮口五合目に抜ける「村山口」がありました。私が登ったときは倒木に覆われ、道も定かではありませんでしたが、現在村山口を復活させようという動きがあります。

富士山の魅力は、日本一高い山に登るといっただけではありません。むしろカラマツやダケカンバ、モミやシラビソで造られた樹林帯とオンタデやフジアザミなどの花が咲く火山草原の間の山麓での自然を楽しむことも魅力の一つです。そのいくつかを紹介いたします。

①富士宮口―宝永山―第二火口回遊ルート…宝永山は、江戸時代の1707年富士山の南東斜面で噴火が



日本山岳協会A級コーチ指導員、元NHK山岳講座講師

起きた時に出来た山です。この宝永山の山腹にはカラマツの樹林が散在します。

②御殿場口新五合目―ニツ塚―幕岩回遊ルート…御殿場口からニツ塚、溶岩流が瀧状に固まった幕岩を巡ります。草原ではフジアザミやフジハタザオなど、樹林帯ではノイバラやベニラジウツギが見られます。

③吉田口五合目―御庭―奥庭ルートやお中道を大沢休泊所を往復する間…夏の頃のハクサンシヤクナゲの群落は見の価値があります。

最後に富士山は、季節や天候によって荒々しい山に変わります。冬に天候が悪化したときに吹く風は、岩肌を這いつくばつても飛ばされそうになります。去年12月片山右京さんの二行が、夜中にテントごと吹き飛ばされて遭難した例は記憶に新しいことです。まさに「冬の富士は六レスト並」の困難さに匹敵します。安易な行動は、厳に慎むべきです。

富士山の魅力は、日本一の高さを誇り、秀麗な佇まいをしているだけでなく、多様な自然を内に秘め、時には美しく時には荒々しい面を現す、人智を越えた存在の中にあるように思います。

■グループ紹介 その①

ドワリーム

＊会の活動状況
ストレッチ&リズムダンス、30代〜60代で楽しくレッスンしています。ぜひ体験にいらして下さい。お待ちしております。

＊活動内容
年度関東地区集い、五年一度舞台発表会。
日本体操協会(財団法人)主催フェスティバルに参加

＊講師：小澤 富美子
＊代表者：花園 充代
＊連絡先：03(3318)8925
＊場所：主に、セシオン杉並
＊練習日：月曜日、午前中、月4回
＊会費：2,000円/月
＊入会金：1,500円
託児あり(要相談)



自然を編む会

＊会の活動状況
セシオンの自主グループとしてスタートし、以来十年以上続いています。先生を困んで月一回の楽しい



くるみ、山葡萄などの籠、国際交流手工業展に出品した作品

時間です。材料は、自然の素材で、野山で見つけることが出来るアケビ、山ぶどう、くるみ、しゆろの葉など、編めるものならなんでも大丈夫。仕上がって見ると、予想を超えた面白い作品が出来あがります。

材料を自分たちで山に行つて見つける楽しみもあります。素材の色合いや太さの違いなどで、各人が個性的な籠を作っています。

まさに、世界で一つだけのわが宝物です。時々出店する機会もあり、手仕事の楽しさは奥が深く、時間が過ぎるのも忘れてしまいます。

＊講師：丸山 きよみ先生
＊代表者：塩谷 友子
＊連絡先：03(3313)0926
＊場所：セシオン杉並
＊練習日：月1回、第二月曜日
＊会費：5,000円/3ヶ月

『定期総会を終えて』

高田寺地域区民センター協議会 会長 大久保 貢祐

新緑の美しい季節を迎えました。当協議会では去る4月27日、区関係者を始め多数の地域の皆様のご臨席を賜り、平成22年度定期総会を開催、無事終了いたしました。

昨年度は、11月に初めての「地域懇談会」を開催し、ご出席くださった地域団体代表の方々より貴重なご意見をいただきましたが、とりわけ「地域の様々な団体とのネットワークを組み、より地域に密着した活動を展開すべき」とのご意見が多くございました。これは図らずも10年後を見据えた当協議会の運動方針と軌を一にいたします。

こうしたご意見を踏まえ、2月に「高円寺北四丁目新生活会」との協働講座講演会「富士山紀行」を、「地域包括支援センターケア24梅里」及び「杉並区障害者団体連合会」との協働・後援により「健康太極拳」をそれぞれ開催し好評を博しました。更に今年度は協働講座の他に9月に開催する「こどもフェア」では、地域NPO団体との一部協働実施について現在協議を進めています。

昨年度の事業で特筆すべきは、3月に開催した「ふれあい音楽会2010」ジャズとラテンとポップスと」でありました。年度締めくくりのこの集団事業は、当協議会初めての有料コンサートとして実施いたしました。



歩きながら、元気と文化が、すぎなみ生まれる街。